

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308-2
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつだが、職員が介護職としての自覚を持ち始めている。また認知症という疾病はどういうものか。どういう関わりが必要なのかと、自分たちで考え始めだしている。まだまだ未熟であり、まだまだ手探りの状態であるが、皆一生懸命に、介護をしたい。安心して暮らして頂きたいと思ひ日々頑張っている。それが、毎月の勉強会に現れたり、開設時に比べて外出支援が増加してきた所にも現れていると思う。これからも三歩進んで二歩下がるかもしれないが、毎日少しずつ入居者様と共に前進していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者が「きらり」と輝いていた時代を大切に考えており、これからも自分らしく輝いて過ごしてほしいと願い、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。介護の重度化が進む中、利用者や家族の希望により、住み慣れた事業所「きらり」で安心して最期を迎えられるように、協力医療機関と連携を取りながら支援している。利用者や家族の思いに応えられるよう「終の棲家」にさせていただいても良いなど、職員全員でターミナルケアに取り組む姿勢の伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームきらり

(ユニット名) そら

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 平成 25 年 6 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を理解し、理念に沿ったケアを実践出来るように、日々心掛けている。泣き笑いを共に分かち合える様に、一人一人の利用者を理解するように努めている。	
			(外部評価) 「利用者が自分らしく『きらり』と輝いていた時代を大切に、今また輝いて暮らしていくことを支える」という理念は代表者が開設当初に作成しており、玄関や居間に提示している。管理者や職員は利用者一人ひとりが「よろこび」と「やすらぎ」のある暮らしが送れるよう日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎年恒例の避難訓練には地域の方々も、積極的に参加して頂き、奉仕活動には代表が参加している。又散歩やゴミ出しの時には挨拶をかわし、手伝って下さる方もいる。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域の奉仕活動などに積極的に参加している。ゴミ出しの時などに地域住民と挨拶を交わしたり手伝ってもらったりしている。開設5年目で少しずつ地域から事業所が認知されてきていると感じているが、地域との繋がりや本格的な交流を深めれるよう努めている。	地域との関わりを持つよう努めているが、日常的な交流までに至っていない。今後、さらに継続して地域との関係づくりに努めて、事業所自体が地域の一員となれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議においては、認知症について話し合う機会もあったが、地域の中では出来ていない。問い合わせや相談があれば出来る限りの対応をしたいと思っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 職員参加の声かけも行ったが、勤務の都合上等からなかなか難しく、参加出来ていない。会議の内容については認知症サポーター養成講座等も入れ、そのような時には職員の参加も出来ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は町担当者、地域住民、家族、法人代表者等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動や状況、課題等を報告したり、参加者と色々な意見交換をしている。管理者は、消防避難訓練や認知症サポーター養成講座と一緒に開催する工夫をしたり、地域への呼びかけを行っているが参加者は少ない。今後、さらにサービスの向上に繋がる会議が開催できるよう努めている。</p>	<p>会議に幅広い意見が取り入れられるよう、地域から多様な立場の参加を得て開催することが望ましい。職員が会議に参加することは学習の機会でもあり、勤務調整をするなど、会議に参加しやすいよう取り組むことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に担当者の出席がある。何か問題や、疑問が生じた時には相談し、その都度対応して頂いている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の相談を行うなど連携を深めている。事業所運営の報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、町が開催する研修等にも積極的に参加している。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間のみ玄関に施錠を行っている。介護時や入浴時には身体の変化がないか観察し、少しの変化も気付くように努めている。又ヒヤリや事故報告の出た事例については、カンファレンスで話し合い、防止策をあげ、拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は理解して事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。</p>	<p></p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス等で、代表者・管理者から虐待、拘束についての話は、折りにふれ話しており、個々が虐待を行ってはいけないと意識し、仕事を行っている。又言葉による精神的な虐待が起こらないように注意しないといけないと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解出来ている者は少ないと思われる。勉強不足。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族から伺った、サービスに関する意見・希望等は、皆で話し合い出来るだけ対応している。又困難な要望に関しては、上司との相談ののち、利用者・家族に報告し、改善出来る様に努力することをお話させて頂いている。	
			(外部評価) 職員は、日々のケアの中で利用者の意見を聞くように努めている。家族には、運営推進会議時や訪問時に意見や要望を聞くように努めている。また、遠方の家族には手紙等を送付したり、電話で連絡をして意見を聞くようにしている。出された意見には迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の勉強会・カンファレンス等で、職員の要望や意見を伝える機会がある。その都度対応はしており、その時返答出来ない場合は、後に返している。ただし、全ての意見や要望を聞き入れてはいない。</p> <p>(外部評価) 職員は日々の業務で気がついたことを管理者に話したり、毎月の勉強会で意見を伝えることができる。職員から出された意見は管理者から代表者に伝えており、反映できることできないことを返答して対応している。管理者と職員はより良い関係づくりを目指しながら、利用者本位のケアを実践できるように努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価・リーダー評価・管理者評価・社長評価とそれぞれとの面接を行い、仕事の努力・実績の把握をし、意欲の確認に努め、個々からの意見も聞き、今後の処遇・現場環境の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 月に1回の勉強会を、それぞれ職員が講師となり行っている。又外部への研修・講習会への参加の機会の確保にも協力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者同志が、研修等で出会い、話し合う事はあっても交流という所まではしていない。ただ職員同志の見学や研修をさせたいですねと言う話し等は、おこなっている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 申込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等からの情報を基に、ご本人に会い、改めてご本人からのお話を聞き、要望や困っている事を聴き取れるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、先ず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止める様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設利用開始と共に、今までのサービスの継続確認をし、対応を相談、出来るだけ要望にそえる様に努めている。又その時の心身の状態を把握出来るように、多くの声かけ等を行い、馴染みの関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事はして頂き、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかける事によって、お互いが助け合う関係が出来ている。又一緒に食事を摂ったり、外出したりと生活を共にし、一つの家族として安心して過ごして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と共に介護をしているという気持ちを持っている。体調が不良になった場合等は、特にこまめに連絡を取り受診等の協力も得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家に帰ってみたいという望みを皆さん持っているが、個々の家庭の都合により、叶えられないのが現実。だが少しでも近くにドライブに行ったり、家族と電話や手紙を頂いたり、個々に合った支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の知人や友人の訪問があり、ゆっくり会話ができるよう職員は温かく見守っている。また、利用者の希望により、お墓参りや馴染みの場所に家族と一緒に掛けるなど個別支援をしており、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。利用者は事業所近く美容室に出かけるなど新しい馴染みの関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握し、トラブルにならない様に席の位置、入浴の順番、ドライブの車中の席等・配慮している。又なかなか皆さんの中に入れていない方もおり、職員がフォローしたり、個別の関わりを持ったりしながら一人でも仲の良い方が出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、病院等であれば、見舞いに行く職員も多い。地域で家族に会えば、挨拶をし、相談されれば応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換はもちろん、日々の関わりの中で得た情報を、申し送りノートやアセスメント表に記録し、皆で共有している。その情報を基に、チームで随時話し合い、サービスを提供している。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、表情や動作から思いや希望を汲み取り、把握するように努めている。入浴時など利用者と職員が1対1となる時を利用して、思いを聞くことが多い。一人ひとりを大切に、思いや意向を把握するよう努めていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントはもちろん、入居後も知り得た情報は、個別の記録に記入したり、カンファレンスで話し合う。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 集団で行う事も多いが、個々にやりたい事やたくない事もあるので、個別の関わりを大切にしている。臥床の多い方は、訪室して声かけを行ったり、歌を聴きたいと言う方は、個室で聞いて頂いている。又バイタル測定・観察・会話等から今の利用者個々の心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人・家族の要望・困っている事等を聴き、ADL等も検討し、日々のその方の生活を多方面から観察し、アセスメントし、介護計画を作成している。又モニタリングは、一ヶ月毎に行い、プラン変更時にスタッフ皆で検討している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。できあがった介護計画は家族に説明し同意を得ている。毎月モニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子・会話・ケアの実施等を細かく記録に残すように指導している。一般状態・排泄・食事・睡眠等も記録に残し、日々のケアに活用している。内容的にはまだまだだが、記録の大切さを感じている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ、柔軟な姿勢で対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 元音楽の先生だった方が、月に一回ボランティアで訪問して下さり、入居者様も喜ばれている。他。地域の理容・美容店の利用。消防署の協力のものとの避難訓練等を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族の要望で入居前からのかかりつけ医が良い と言われる方には、継続して受診援助を行っている。 そうでない方は、近くの医院に協力を仰いでおり、体 調不良の相談・受診を行い、異常時には、休日受診・ 夜間の受診にも対応して頂いている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよ う支援している。また、協力医療機関が整備されてお り、専門医の受診は職員が同行し、安心して継続でき るよう支援している。利用者の急変時には協力医療機 関の往診があり、状態変化時などにも対応できる体制 ができており、利用者や家族は安心して利用すること ができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協調出来ており、日々情報を共有して、異常の早期発 見・健康管理に努めている。又、疾患・症状等の相談 もあり、助言・指導している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連絡をとり、退院間際には、カンファに も参加し、入院中および退院に向けての支援を行って いる。又、入院中は度々面会に行き、本人・家族との 信頼関係、病院関係者との関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族・本人の希望、家族との信頼関係が成り立ってい るのでターミナルに取り組んでいる。主治医も含め話 し合いをし、ターミナルのケアプランを作成し、介護 を行っている。初めてであり、個々の職員も不安を 持っているが、きらりの職員皆と、家族、医師・看護 師等の多くの人たちの協力のもと、安楽な最後を迎え られるように支援している。	
			(外部評価) 入居時に、重度化や終末期に事業所としてできること を利用者と家族に説明し意向を確認している。最近、 設立5年目で初めての看取りを経験した。職員は家族 の思いを医療機関などと共有しながら連携して看取り ケアを行い、利用者は家族が見守る中で穏やかに最期 を迎えられた。利用者の状態等に合わせた話し合いや 職員の共有のあり方など今後の課題として取り組める ように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルは作成している。救命救急訓練も消防署の方の指導のもと行っている。実践力はと言うと疑問はある。繰り返しての訓練が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方との消防訓練を実施。参加人数も少しずつ増えている。津波を想定した避難訓練も行っており、入居者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また水や乾パン等の備蓄品も確保した。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、避難場所の確認など日頃から職員全員で防災意識を持つよう心がけている。訓練は地域住民と一緒に実施しており、協力体制が築かれている。また、備蓄品等を用意するなど災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心に配慮し、一人一人の気持ちを考えた声かけを行っている。しかし親しくなった為に、言葉が失礼になる事がある。今後十分に注意したい。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう、不快感や羞恥心に配慮した声かけや対応を心がけている。気づいたことがある場合は、その都度、職員同士で注意し合い確認している。利用者一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 頻回の声かけや、生活の中での言葉・表情・態度から思いを汲み取りそれが表現できるように支援している。自己決定の出来ない場合は、家族さんに伺ったり、その方にとってベストであろうと思う事を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員・事業所の決めた流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、個々のペースで過ごせるように努力している。買い物やドライブ等、その人の希望に沿った、その人らしい生活がおくれるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪に出かけたり、洋服の購入に出かけ、お化粧品教室を開催し喜ばれた。又何時も爪や洗顔には気を付け、自分で行えない方には、特に気を配っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食は職員も同じテーブルで、一緒に食事を摂っている。調理を出来る方は少ないが、台拭きや簡単なおやつ作り等は楽しく行われる。また嚥下能力に合わせた食事形態を取っており、安全に食事が摂れるように介助している。	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら楽しそうに食事をしている。介助の必要な利用者には職員が寄り添い、適切な介助をして支援している。利用者の好みのメニューを取り入れたり、誕生日にはケーキを用意するなど利用者の楽しみのひとつとなっている。また、食器の片付けなど利用者のできることを自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の形態や時間においても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を職員派理解・注意し、摂取出来るように工夫・声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉・他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科医の受診を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、個々に応じたトイレの声かけ、パットの種類の変更を行っている。又オムツ対応の方であっても、便意のある方は、Pトイレやトイレ誘導にて、排便をして頂いている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。必要に応じてオムツを使用するなど、一人ひとり合った排泄支援をしている。できる限り日中は利用者がトイレで排泄ができるよう、声かけや誘導などをして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあるが、食事内容の工夫をしたり、水分摂取・牛乳飲用を勧めるなどで薬だけに頼らないように努めている。また散歩や腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 身体状況の低下の方は、2回/週を基本とし、他の方は1回/2日の入浴を行っている。拒否される方もいるが、無理強いせず、入浴自体が嫌にならない様に気を付けている。また入浴前には必ずバイタル測定をし、安全に入浴出来るように注意している。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本とし、利用者の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理強いせず心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて2人体制で介助しており、リフトも完備され安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の心身の状態を把握し、寝具の種類や部屋の明るさ等を配慮し、気持ち良く眠られる様に配慮している。日中も休みたい方は居室やソファで休まれ、意思を伝えられない方には、職員が誘導し休息して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬効や副作用を理解し、投薬時には、名前・日付・時間(朝昼夜等)の再三の確認をし、服薬介助を行っている。薬効等の理解の為に、説明書を保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた手伝い(洗濯物たたみ・新聞折り・台拭き・洗濯物干し・花の水やり等)や、ちぎり絵・塗り絵・箱作り・折り紙等の創作活動、歌の会の参加、買い物、ドライブ等を一緒に行い、生活に張りや喜びを感じて頂ける様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スーパーへの買い物や近辺の散歩、花や鯉のぼりを観にドライブ等、出来るだけ機会を作って、ホームの外に出るように支援している。ご家族と食事に行かれる方も居られる。利用者の状態にもよるが、段々と外出支援が職員の中に浸透してきている。	
			(外部評価) 日常的に近くのスーパーへ利用者と一緒に行き買いに出かけている。利用者の希望によりドライブを兼ねて外出したり、季節に合わせてお花見に出かけるなど、外出できる機会をつくり支援している。また、家族の協力を得て外食し楽しい時間を過ごすなど、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方がお金を持っていたり、事務所預かりにしている。預かりの分には、出納帳をつけ、必要時に見せている。お金の所持や使用の大切さを入居者が理解しているかという・・・難しい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・スロープ・ユニットには、季節の花を飾り、リビングにも。季節の壁画やちぎり絵を飾り、季節感を取り入れる工夫をしている。又入居者の好む歌をながしたり、職員の足音は出来るだけ小さくし、不快感を感じる様な匂いを失くし、清掃にも注意し、快適に過ごせるように努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が作った季節の飾りものが、壁やテーブルに飾られている。窓からは自然な光が差し込み、ソファや畳スペースでは、利用者は自由にゆっくりくつろぐことができる。リビングや廊下は、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう環境整備が行き届いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間の中で、独りになる事は難しい。リビングではそれぞれの居場所が出来ており、気の合った方同士でお話をされている。又、レク・リハ・食事の席や位置にも配慮し、トラブル無く過ごせるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室の備え付け品は、ベッド・エアコン・カーテンであり、他は使い慣れた物や、愛着のある物を持って来られている。個々の居室は、それぞれタンスや写真・仏壇等があり、在宅からの生活が出来るだけ継続し、安心して暮らして頂ける様に努めている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、ベッド、カーテンが備え付けられている。また、利用者は居室に使い慣れたタンスや小物、仏壇等を持ち込むことができ、家族との写真を飾るなど落ち着いて居心地よく生活が送れるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内部は、バリアフリーで手摺りを設置している。自力歩行の方や手引き歩行のかたが利用され、トイレ内部にも設置し、安全に使用できるように配慮している。又浴室・トイレには呼び出しブザーも設置している。居室の入り口は名前だけでなく、写真や折り紙を飾り、居室が解る様に配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3894000037
法人名	有限会社 ファーストステップ
事業所名	グループホーム きらり
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城1308-2
自己評価作成日	平成 25 年 6 月 28 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつだが、職員が介護職としての自覚を持ち始めている。また認知症という疾病はどういうものか。どういう関わりが必要なのかと、自分たちで考え始めだしている。まだまだ未熟であり、まだまだ手探りの状態であるが、皆一生懸命に、介護をしたい。安心して暮らして頂きたいと思日々頑張っている。それが、毎月の勉強会に現れたり、開設時に比べて外出支援が増加してきた所にも現れていると思う。これからも三歩進んで二歩下がるかもしれないが、毎日少しずつ入居者様と共に前進していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、利用者が「きらり」と輝いていた時代を大切に考えており、これからも自分らしく輝いて過ごしてほしいと願い、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。介護の重度化が進む中、利用者や家族の希望により、住み慣れた事業所「きらり」で安心して最期を迎えられるように、協力医療機関と連携を取りながら支援している。利用者や家族の思いに応えられるよう「終の棲家」にさせていただいても良いなど、職員全員でターミナルケアに取り組む姿勢の伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム きらり

(ユニット名) うみ

記入者(管理者)

氏名 萩森 日出子

評価完了日 平成 25 年 6 月 28 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を理解し、理念に沿ったケアを実践出来るように、日々心掛けている。泣き笑いを共に分かち合える様に、一人一人の利用者を理解するように努めている。</p> <p>(外部評価) 「利用者が自分らしく『きらり』と輝いていた時代を大切に、今また輝いて暮らしていくことを支える」という理念は代表者が開設当初に作成しており、玄関や居間に提示している。管理者や職員は利用者一人ひとりが「よろこび」と「やすらぎ」のある暮らしが送れるよう日々のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 毎年恒例の避難訓練には地域の方々も、積極的に参加して頂き、奉仕活動には代表が参加している。又散歩やゴミ出しの時には挨拶をかわし、手伝って下さる方もいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域の奉仕活動などに積極的に参加している。ゴミ出しの時などに地域住民と挨拶を交わしたり手伝ってもらったりしている。開設5年目で少しずつ地域から事業所が認知されてきていると感じているが、地域との繋がりや本格的な交流を深めれるよう努めている。</p>	地域との関わりを持つよう努めているが、日常的な交流までに至っていない。今後、さらに継続して地域との関係づくりに努めて、事業所自体が地域の一員となれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議においては、認知症について話し合う機会もあったが、地域の中では出来ていない。問い合わせや相談があれば出来る限りの対応をしたいと思っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 職員参加の声かけも行ったが、勤務の都合上等からなかなか難しく、参加出来ていない。会議の内容については認知症サポーター養成講座等も入れ、そのような時には職員の参加も出来ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は町担当者、地域住民、家族、法人代表者等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動や状況、課題等を報告したり、参加者と色々な意見交換をしている。管理者は、消防避難訓練や認知症サポーター養成講座と一緒に開催する工夫をしたり、地域への呼びかけを行っているが参加者は少ない。今後、さらにサービスの向上に繋がる会議が開催できるよう努めている。</p>	<p>会議に幅広い意見が取り入れられるよう、地域から多様な立場の参加を得て開催することが望ましい。職員が会議に参加することは学習の機会でもあり、勤務調整をするなど、会議に参加しやすいよう取り組むことを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に担当者の出席がある。何か問題や、疑問が生じた時には相談し、その都度対応して頂いている。</p> <p>(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の相談を行うなど連携を深めている。事業所運営の報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、町が開催する研修等にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間のみ玄関に施錠を行っている。介護時や入浴時には身体の変化がないか観察し、少しの変化も気付くように努めている。又ヒヤリや事故報告の出た事例については、カンファレンスで話し合い、防止策をあげ、拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は理解して事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス等で、代表者・管理者から虐待、拘束についての話は、折りにふれ話しており、個々が虐待を行ってはいけないと意識し、仕事を行っている。又言葉による精神的な虐待が起こらないように注意しないといけないと思っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解出来ている者は少ないと思われる。勉強不足。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を交わす際には、利用者や家族等と書面を基に、時間をかけて解りやすく、十分納得して頂ける説明に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族から伺った、サービスに関する意見・希望等は、皆で話し合い出来るだけ対応している。又困難な要望に関しては、上司との相談ののち、利用者・家族に報告し、改善出来る様に努力することをお話させて頂いている。	
			(外部評価) 職員は、日々のケアの中で利用者の意見を聞くように努めている。家族には、運営推進会議時や訪問時に意見や要望を聞くように努めている。また、遠方の家族には手紙等を送付したり、電話で連絡をして意見を聞くようにしている。出された意見には迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月の勉強会・カンファレンス等で、職員の要望や意見を伝える機会がある。その都度対応はしており、その時返答出来ない場合は、後に返している。ただし、全ての意見や要望を聞き入れてはいない。</p> <p>(外部評価) 職員は日々の業務で気がついたことを管理者に話したり、毎月の勉強会で意見を伝えることができる。職員から出された意見は管理者から代表者に伝えており、反映できることできないことを返答して対応している。管理者と職員はより良い関係づくりを目指しながら、利用者本位のケアを実践できるように努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 半年に一度の業務の自己評価・リーダー評価・管理者評価・社長評価とそれぞれとの面接を行い、仕事の努力・実績の把握をし、意欲の確認に努め、個々からの意見も聞き、今後の処遇・現場環境の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 月に1回の勉強会を、それぞれ職員が講師となり行っている。又外部への研修・講習会への参加の機会の確保にも協力している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者同志が、研修等で出会い、話し合う事はあっても交流という所まではいっていない。ただ職員同志の見学や研修をさせたいですねと言う話し等は、おこなっている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 申込みがあり、訪問に行く際は、居宅事業所等からの情報を基に、ご本人に会い、改めてご本人からのお話を聞き、要望や困っている事を聴き取れるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から、家族等が困っておられる事、不安な事、求められている事をよく聞き、先ず必要としている支援を見極めながら、話し合い、受け止める様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当施設利用開始と共に、今までのサービスの継続確認をし、対応を相談、出来るだけ要望にそえる様に努めている。又その時の心身の状態を把握出来るように、多くの声かけ等を行い、馴染みの関係・信頼関係の構築に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事はして頂き、感謝の言葉やねぎらいの言葉をかける事によって、お互いが助け合う関係が出来ている。又一緒に食事を摂ったり、外出したりと生活を共にし、一つの家族として安心して過ごして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と共に介護をしているという気持ちを持っている。体調が不良になった場合等は、特にこまめに連絡を取り受診等の協力も得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家に帰ってみたいという望みを皆さん持っているが、個々の家庭の都合により、叶えられないのが現実。だが少しでも近くにドライブに行ったり、家族と電話や手紙を頂いたり、個々に合った支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者の知人や友人の訪問があり、ゆっくり会話ができるよう職員は温かく見守っている。また、利用者の希望により、お墓参りや馴染みの場所に家族と一緒に掛けるなど個別支援をしており、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。利用者は事業所近く美容室に出かけるなど新しい馴染みの関係もできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握し、トラブルにならない様に席の位置、入浴の順番、ドライブの車中の席等・配慮している。又なかなか皆さんの中に入れていない方もおり、職員がフォローしたり、個別の関わりを持ったりしながら一人でも仲の良い方が出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、病院等であれば、見舞いに行く職員も多い。地域で家族に会えば、挨拶をし、相談されれば応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスでの情報交換はもちろん、日々の関わりの中で得た情報を、申し送りノートやアセスメント表に記録し、皆で共有している。その情報を基に、チームで随時話し合い、サービスを提供している。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりに向き合いながら、表情や動作から思いや希望を汲み取り、把握するように努めている。入浴時など利用者と職員が1対1となる時を利用して、思いを聞くことが多い。一人ひとりを大切に、思いや意向を把握するよう努めていることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前後のアセスメントはもちろん、入居後も知り得た情報は、個別の記録に記入したり、カンファレンスで話し合う。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 集団で行う事も多いが、個々にやりたい事やたくない事もあるので、個別の関わりを大切にしている。臥床の多い方は、訪室して声かけを行ったり、歌を聴きたいと言う方は、個室で聞いて頂いている。又バイタル測定・観察・会話等から今の利用者個々の心身の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の要望・困っている事等を聴き、ADL等も検討し、日々のその方の生活を多方面から観察し、アセスメントし、介護計画を作成している。又モニタリングは、一ヶ月毎に行い、プラン変更時にスタッフ皆で検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、担当者を中心に話し合いを行い、介護計画を作成している。できあがった介護計画は家族に説明し同意を得ている。毎月モニタリングを行い、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子・会話・ケアの実施等を細かく記録に残すように指導している。一般状態・排泄・食事・睡眠等も記録に残し、日々のケアに活用している。内容的にはまだまだだが、記録の大切さを感じている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ、柔軟な姿勢で対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 元音楽の先生だった方が、月に一回ボランティアで訪問して下さり、入居者様も喜ばれている。他。地域の理容・美容店の利用。消防署の協力のものとの避難訓練等を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人・家族の要望で入居前からのかかりつけ医が良い と言われる方には、継続して受診援助を行っている。 そうでない方は、近くの医院に協力を仰いでおり、体 調不良の相談・受診を行い、異常時には、休日受診・ 夜間の受診にも対応して頂いている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよ う支援している。また、協力医療機関が整備されてお り、専門医の受診は職員が同行し、安心して継続でき るよう支援している。利用者の急変時には協力医療機 関の往診があり、状態変化時などにも対応できる体制 ができており、利用者や家族は安心して利用すること ができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 協調出来ており、日々情報を共有して、異常の早期発 見・健康管理に努めている。又、疾患・症状等の相談 もあり、助言・指導している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 医療機関との連絡をとり、退院間際には、カンファに も参加し、入院中および退院に向けての支援を行って いる。又、入院中は度々面会に行き、本人・家族との 信頼関係、病院関係者との関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族・本人の希望、家族との信頼関係が成り立ってい るのでターミナルに取り組んでいる。主治医も含め話 し合いをし、ターミナルのケアプランを作成し、介護 を行っている。初めてであり、個々の職員も不安を 持っているが、きらりの職員皆と、家族、医師・看護 師等の多くの人たちの協力のもと、安楽な最後を迎え られるように支援している。</p> <p>(外部評価) 入居時に、重度化や終末期に事業所としてできること を利用者と家族に説明し意向を確認している。最近、 設立5年目で初めての看取りを経験した。職員は家族 の思いを医療機関などと共有しながら連携して看取り ケアを行い、利用者は家族が見守る中で穏やかに最期 を迎えられた。利用者の状態等に合わせた話し合いや 職員の共有のあり方など今後の課題として取り組める ように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時・事故発生時のマニュアルは作成している。救命救急訓練も消防署の方の指導のもと行っている。実践力はと言うと疑問はある。繰り返しての訓練が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方との消防訓練を実施。参加人数も少しずつ増えている。津波を想定した避難訓練も行っており、入居者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また水や乾パン等の備蓄品も確保した。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、避難場所の確認など日頃から職員全員で防災意識を持つよう心がけている。訓練は地域住民と一緒に実施しており、協力体制が築かれている。また、備蓄品等を用意するなど災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心に配慮し、一人一人の気持ちを考えた声かけを行っている。しかし親しくなった為に、言葉が失礼になる事がある。今後十分に注意したい。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう、不快感や羞恥心に配慮した声かけや対応を心がけている。気づいたことがある場合は、その都度、職員同士で注意し合い確認している。利用者一人ひとりの人格を尊重して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 頻回の声かけや、生活の中での言葉・表情・態度から思いを汲み取りそれが表現できるように支援している。自己決定の出来ない場合は、家族さんに伺ったり、その方にとってベストであろうと思う事を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員・事業所の決めた流れに沿って、一日を過ごす事が多いと思うが、個々のペースで過ごせるように努力している。買い物やドライブ等、その人の希望に沿った、その人らしい生活がおくれるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪に出かけたり、洋服の購入に出かけ、お化粧品教室を開催し喜ばれた。又何時も爪や洗顔には気を付け、自分で行えない方には、特に気を配っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼食は職員も同じテーブルで、一緒に食事を摂っている。調理を出来る方は少ないが、台拭きや簡単なおやつ作り等は楽しく行われる。また嚥下能力に合わせた食事形態を取っており、安全に食事が摂れるように介助している。	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら楽しそうに食事をしている。介助の必要な利用者には職員が寄り添い、適切な介助をして支援している。利用者の好みのメニューを取り入れたり、誕生日にはケーキを用意するなど利用者の楽しみのひとつとなっている。また、食器の片付けなど利用者のできることを自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立に沿った食事を提供している。摂取量・水分量に注意し、体重も2回/月測定している。又食事の形態や時間においても、工夫の必要な方には対応している。特に水分不足は、脱水・せん妄に繋がる事を職員派理解・注意し、摂取出来るように工夫・声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っており、一人一人のレベルに応じた援助を行っている。又個々の歯・歯肉・他の状態を観察し、必要に応じて協力歯科医の受診を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを排泄チェック表で把握し、個々に応じたトイレの声かけ、パットの種類の変更を行っている。又オムツ対応の方であっても、便意のある方は、Pトイレやトイレ誘導にて、排便をして頂いている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。必要に応じてオムツを使用するなど、一人ひとり合った排泄支援をしている。できる限り日中は利用者がトイレで排泄ができるよう、声かけや誘導などをして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤もあるが、食事内容の工夫をしたり、水分摂取・牛乳飲用を勧めるなどで薬だけに頼らないように努めている。また散歩や腹部マッサージ等も行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 身体状況の低下の方は、2回/週を基本とし、他の方は1回/2日の入浴を行っている。拒否される方もいるが、無理強いせず、入浴自体が嫌にならない様に気を付けている。また入浴前には必ずバイタル測定をし、安全に入浴出来るように注意している。	
			(外部評価) 週2回の入浴を基本とし、利用者の希望を聞きながら入浴支援をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理強いせず心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて2人体制で介助しており、リフトも完備され安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の心身の状態を把握し、寝具の種類や部屋の明るさ等を配慮し、気持ち良く眠られる様に配慮している。日中も休みたい方は居室やソファで休まれ、意思を伝えられない方には、職員が誘導し休息して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は薬効や副作用を理解し、投薬時には、名前・日付・時間(朝昼夜等)の再三の確認をし、服薬介助を行っている。薬効等の理解の為に、説明書を保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じた手伝い(洗濯物たたみ・新聞折り・台拭き・洗濯物干し・花の水やり等)や、ちぎり絵・塗り絵・箱作り・折り紙等の創作活動、歌の会の参加、買い物、ドライブ等を一緒に行い、生活に張りや喜びを感じて頂ける様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スーパーへの買い物や近辺の散歩、花や鯉のぼりを観にドライブ等、出来るだけ機会を作って、ホームの外に出るように支援している。ご家族と食事に行かれる方も居られる。利用者の状態にもよるが、段々と外出支援が職員の中に浸透してきている。	
			(外部評価) 日常的に近くのスーパーへ利用者と一緒にお買い物に出かけている。利用者の希望によりドライブを兼ねて外出したり、季節に合わせてお花見に出かけるなど、外出できる機会をつくり支援している。また、家族の協力を得て外食し楽しい時間を過ごすなど、家族とふれあう外出支援を心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 数名の方がお金を持っていたり、事務所預かりにしている。預かりの分には、出納帳をつけ、必要時に見せている。お金の所持や使用の大切さを入居者が理解しているかという・・・難しい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも本人の希望される時に、電話をかけたり、手紙のやり取りができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・スロープ・ユニットには、季節の花を飾り、リビングにも。季節の壁画やちぎり絵を飾り、季節感を取り入れる工夫をしている。又入居者の好む歌をながしたり、職員の足音は出来るだけ小さくし、不快感を感じる様な匂いを失くし、清掃にも注意し、快適に過ごせるように努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が作った季節の飾りものが、壁やテーブルに飾られている。窓からは自然な光が差し込み、ソファや畳スペースでは、利用者は自由にゆっくりくつろぐことができる。リビングや廊下は、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう環境整備が行き届いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間の中で、独りになる事は難しい。リビングではそれぞれの居場所が出来ており、気の合った方同士でお話をされている。又、レク・リハ・食事の席や位置にも配慮し、トラブル無く過ごせるように努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室の備え付け品は、ベッド・エアコン・カーテンであり、他は使い慣れた物や、愛着のある物を持って来られている。個々の居室は、それぞれタンスや写真・仏壇等があり、在宅からの生活が出来るだけ継続し、安心して暮らして頂ける様に努めている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、ベッド、カーテンが備え付けられている。また、利用者は居室に使い慣れたタンスや小物、仏壇等を持ち込むことができ、家族との写真を飾るなど落ち着いて居心地よく生活が送れるよう支援している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内部は、バリアフリーで手摺りを設置している。自力歩行の方や手引き歩行のかたが利用され、トイレ内部にも設置し、安全に使用できるように配慮している。又浴室・トイレには呼び出しブザーも設置している。居室の入り口は名前だけでなく、写真や折り紙を飾り、居室が解る様に配慮している。</p>	